

株式会社 小松製作所

https://home.komatsu/jp/press/2011/others/1187457_1557.html

https://home.komatsu/jp/press/2012/others/1187869_1563.html



《将来に向けた取組方針》

コマツは2011年「生物多様性宣言」と「ガイドライン」を公表し、この9年間に国内外の各拠点（工場、オフィス）が継続的な活動を展開している。生物多様性保全活動は、重要な経営課題の一つと経営層が認識し、全社員の参加と次世代の環境教育も兼ねている。また、この活動は行政や地域と協働で進め、地域の理解と誇りを得ている。更に、自然共生社会の構築に密接に関連すると認識し、2030年までに2010年比原単位で、CO₂半減（生産、製品）及び水使用量60%削減、廃棄物40%削減を目標とし「環境統合型経営」を推進する。

《具体的取組み事例》

土地利用時の配慮

大阪工場「おおさか生物多様性パートナー協定」締結（2016～）

大阪工場敷地内の緑地（コマツ里山）での生物多様性に配慮した管理を通じ、エコロジカルネットワークの構築を進めると共に、市民を対象とした自然観察会のフィールドとして活用することにより、地域貢献および生物多様性の認知度アップなどの波及効果が期待できる。



大阪工場 コマツ里山

地域貢献

粟津工場「木場潟再生プロジェクト（パートナーシップ）」（2011～）

木場潟再生プロジェクトは、市民、行政、企業の三位一体の連携により設立され、木場潟の水質浄化と生態系保全活動を行っている。特に、粟津工場新入社員研修で、消波堤造成、ガガブタ（水草）池拡張やヨシ刈りに汗を流している。今後も、木場潟の保全活動を継続する。



粟津工場 地域のビオトープ整備

生態系保全

試験場「動植物調査」（2011～）

郷土の固有種・希少種である両生類のため、樹林地整備と良水質の貯水池をビオトープ化し、生息し易くしている。また良好な環境の確認のため、産卵期に、卵塊や成体の個体数を調査している。保護活動後、個体数の増加が確認されている。

・動植物調査結果 植物 467種 ; 動物 367種



外来植物の駆除



希少生物の保護

コマツブラジル(有)における生物多様性活動（2013～）

広大な敷地に森林を擁し、2013年の調査では、約70種の動物と82種の植物が確認された。その中には、絶滅危惧種のブラジルボクや貴重なアオハシヒメネオオハシも含まれている。今後は、生育条件を考慮し緑地を拡大していく予定。社内外への環境教育プログラムも実施している。



ブラジルボク



アオハシヒメネオオハシ

《今後の課題》 サプライチェーン全体への拡大を図る。

《自社取組表現》 1拠点1テーマ活動